

2023年2月期 第1四半期決算説明会

【質疑応答要旨】

日時：2022年7月8日（金）10:00-10:30

説明者：取締役 財務・経理・IR担当 佐藤 修

- Q. 第1四半期の営業利益20億円は計画に対して上振れしたのか教えてほしい。
また、第2四半期以降に向けて懸念点があるとすれば、国内、海外個別に具体的にどのような内容を想定しているのか教えてほしい。**
- A. 第1四半期の予想数値は開示しておりません。上期予想は比較的厳しく見ており、第1四半期も同様厳しめに見ておりました。この比較で行くと第1四半期の結果は堅調に推移したと言えます。
- 第2四半期以降に向けての懸念点は、足元でコロナ感染者数が増えていること、原材料の高騰が為替も含めてじわじわと下期に向けて効いてくるとは思われますが、販売面での値引きの抑制などで対処していくつもりです。
- また、商品の6～7割が中国からの仕入れで、第1四半期では物流の混乱がありました。今後回復基調にはなると思いますが、今後のコロナの状況とも連動すると思っています。
- Q. 収益性改善策が実施されているが、例えば商社に一括委託していた生産を見直し、原材料の見える化などにより改善効果が1Qから出ていると思ってよいか。**
- A. 数年前に実施した支店制度の廃止、一括物流、昨年からはスタートしたOMO化の推進などの対応により、モノが効率的に回るようになりました。販売施策としても、値引抑制などによる粗利益率の改善効果が出てきております。また、原材料調達から生産、物流までのSCM（サプライチェーンマネジメント）改革を推進しており、その効果も出てきています。さらに、PLM（製品ライフサイクル管理）の導入を推進しています。

Q. 営業利益は計画に対して堅調との表現だったが、若干しか上回っていないように思える。上回ったのなら幾らぐらい上回ったのか、リスクが考えられるため予想は据え置いた、と表現していただかないとマーケットとしては適正に評価し辛い。規模感を教えてほしい。

A. 具体的な数値を言うのは難しいです。月次売上概況リリースでの第1四半期の既存店売上は前年同期比122%、全店売上は同115%ですが、計画では前年をやや超す程度、と控え目に考えていました。

7月、8月も第1四半期の水準が続けば、営業利益は予想数値を相当程度上回ってくると思います。

Q. 商品開発の強化に向けて、刺さる商品を作るための組織変更を行っているか。デザイナー・パタンナー含めた人事の刷新をしているか。

A. 「uncrave（アンクレイヴ）」、「#NEWANS（ハッシュ・ニュアンス）」など、百貨店ブランドではない商品の開発を、新しい組織で若手を入れて行っています。新しい商品も順調に推移しています。

以上